

NEXCO 西日本 新名神の高槻JCT～川西IC開通

NEXCO西日本関西支社が建設を進めていた新名神高速道路の高槻JCT・IC～川西IC間（大阪府高槻市宮が谷～兵庫県川西市西畦野、延長26.2*km）が10日、開通した。当日開かれた式典には、石塚由成社長を始め、地元選出の国会議員や沿線自治体の首長、石川雄一国土交通省道路局長、池田豊人近畿地方整備局長ら600人が出席し、盛大に開通を祝った＝写真。都市間の連携強化や災害時のバックアップ機能など、関西活性化に弾みをつける「未来につながる信頼の道」として大きな期待が寄せられている。

式典の冒頭、石塚社長は「今回の開通で大阪北部地域および兵庫県川西地域から周辺の高速度道路ネットワークへのアクセス性が向上する。地域間の一層の連携に期待している。さらに川西ICから神戸JCT間が今年度末に開通すれば、中国自動車道とのダブルネットワークが形成され、渋滞解消や大規模災害が発生したときの代替路としての機能も果たせるようになる。引き続き、残る区間の工事についても安全最優先で進め、新名神全線の開通に向け、最大限、努力していきたい」とあいさつした。

続いて来賓の竹内廣行大阪府副知事、地元選出の国会議員が祝辞を寄せた。祝電披露の後、企業や地元消防局による期待の言葉をビデオメッセージとライブ中継で紹介したあと、佐野仁紀NEXCO西日本関西支社新名神大阪西事務所長が工事経過を報告した。大橋一功大阪府議会議長が結びの言葉を述べた後、会場を移動し、テープカットとくす玉開き、開通パレードなどの開通セレモニーを実施した。

今回の開通で、大阪北部地域および川西地域から周辺高速度道路ネットワークへのアクセス性が大きく向上する。兵庫県猪名川町から京都駅



開通で大阪北部地域と川西地域から周辺高速度道路へのアクセスが向上する

未来につながる信頼の道



までの所要時間だと約25分短縮される。さらに現名神高速道路の渋滞解消やリダンダンシー（代替性）の確保が期待されているほか、沿線地域では約3,000人の新たな雇用が創出されており、今後も物流施設の進出、計画もある。

また、開通区間では多くの新技術・新工法が採用されている。平面監視システムを導入しトラブルに迅速に対応できる料金所や避難誘導、注意喚起ができるトンネル照明設備、トンネル内の状況を把握できるロボットカメラなど、安全やサービス面で随所に新たな取り組みが盛り込まれている。

